

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570909416		
法人名	有限会社くおん		
事業所名	グループホームくおん(B棟)		
所在地	秋田県鹿角市八幡平字堰の下108番地		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>春夏秋冬 季節を目で肌で感じ取れる自然豊かな環境にあります。日々ゆったりと一日が過ぎるような雰囲気の中で安心して過ごして頂くよう努めております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬が長いので陽が出る日は出来るだけ外で、日光浴、外気浴を行っています。(目の前の田んぼの様子や作業内容を見て、目で季節を感じる事が出来る。また、外気に触れることで肌でも季節を感じる事が出来る。自然を目にすることで、昔話をしたり会話の糸口になつたりしている。) ・入居者さんの重度化が進んでいる状況で、入居者さんとそのご家族さんの安心に繋がるように訪問歯科、往診などの外部からの力添えを頂いている。 ・今年度は、コロナ禍の中で外部での研修が激減している為、内部研修を毎月計画に沿って行い、職員の資質向上に努めておりますが、資格取得の為、介護福祉士、初任者研修を会社経費で受講して頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「ゆとり いたわり 思いやり」を内部研修の際、説明を受け実践出来るよう努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2週間に一度、地域の商店から移動販売をしてもらっている。併せて、天気の良い日は外へ散歩に行き声を掛け合い、交流する事で馴染みの関係作りに取り組んでいる。今年度は出来なかったが、高校生や中学生、保育園児の来訪や見学を行い、若い世代への理解にも努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	上記と連動してくるが、地域の方たちと入居者さんが実際に言葉を交わす事で、理解の輪を広げていると感じる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で報告があり、出来る事は直ぐに実施してもらった。例えば、感染症(コロナ以外)流行期前に面会者に対し注意喚起する張り紙を大きくする事で、緊張感が伝わるのでは・・・などなど 今年度は、開催出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ毎回参加して頂き、ホームでの取り組み、近況報告を行っている。今年度は推進会議を開催出来ておりませんが、2カ月に一度資料を提出している。分からない部分や聞きたいことがあれば、都度出向きアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修会や3か月に1度開催の身体拘束廃止委員会の中で、情報を発信している。また、マニュアルについて深く考える回もあり、職員一人ひとりが使いこなす自分たちのマニュアルになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の研修、委員会はもちろんです、ユニット会議や日々の申し送りの際に話し合い注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在 利用している方がおります。ほとんどは入居前から利用されております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず施設見学をして頂いております。本人はもちろんですが、ご家族様からホームの様子を見てもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置。来訪時に意見、要望を聞いている。今年度は出来ていないが、家族会の開催を毎年行っている。また、推進会議の評議員にも家族代表者2名加わって頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	親睦会の開催(今年度は出来ていない)会議の中で提案している。例えば、避難訓練後 消火器が重い。との意見で軽い消火器4本設置。誘導時、車いす対応した方が早い。車いす予備4台購入した。などなど		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間には気を付けています。資格取得に関し多岐にわたりバックアップしてもらっている。介護福祉士資格取得すると昇給がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月計画に沿った内部研修を行っている。初任者研修、介護福祉士資格取得にバックアップして頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、コロナ禍により交流が少ないのが現状です。コロナ禍前は、市内で開催の研修会に参加する事で、同業者との交流、連携が出来ていたが・・・。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、ご家族様、ご本人から生活状況を聞き、入居後の生活に工夫している。また、入居前にご本人と会う機会を設ける事で関係づくりをスムーズに行えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前までに関わったケアマネ、担当者から情報を聞き、入居後の関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、得意とする事を手伝って頂いております。また、その日その日であいさつ当番を決め誰しもが役割があり主役となる日が、必ず回ってくる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など状況を説明し意見を聞いております。ご家族様とも状況の共有しており1年に2度は受診にも立ち会って頂いております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍になる前は、入居前から参加していた地元地域の「ばっちゃん会」へ参加してもらったり兄弟、従妹の面会であったり共に外出であったり支援していた。昔から変わらないお寺、神舎地域のお祭り見学に外出していた。		
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で一人にならない様、リビングでレクや皆が分かる歌うを歌ったりする事で、孤立にならない様に努めている。職員が良いジョイントとなり世代が違う方でも共通の話題、歌で盛り上がっている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院 退去となってもできる限り面会に行っている。退去となってもご家族様との関係があり、出合った時に声を掛けたり、掛けられたり馴染みの関係が継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お茶の時間の何気ない会話や七夕の短冊など要望だと考えている。また月初めに要望を聞いて一つ一つ出来る様に努めている。		
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を元に一人ひとりの把握に努めている。 入居時、前のケアマネから情報を貰ったり本人、ご家族様から聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今やれる事を職員と一緒にやっている。カンファレンスや申し送りの際に検討している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ会議、介護計画を作成している。毎日のユニット会で一人ひとりの状況を確認し受診時主治医へ相談しアドバイスを頂いている。また、ご家族様の来訪時、思いを聞いている。		
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を元に毎日カンファレンスし必要に応じて見直しをしている。申し送りやユニット会議で日々の介護について話合っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店から移動販売に来てもらい入居者が買い物出来る機会をつくってもらっている。民俗資料館に出掛けて思い出を話し合った時があります。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居するからと言って主治医を変えた時はないです。入居前からの主治医を継続しています。歯については訪問診療をお願いしており不具合の都度直ぐに対応して頂いている。また、少しの困った事を相談できる関係を構築している。薬局についても、薬の分からない事をタイムリーに対応して頂ける関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員不在の為、受診前のカンファレンスを大切にしている。診察前に看護師に話をして診察がスムーズに行えるようにしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネが対応している。ケアマネから入居者の状態について報告されている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期にくおんで出来る事、出来ない事を説明している。重度化、終末期について日々の生活で考えておき、受診時には主治医と話をしている。また、特養、老健への入所を考えている。		
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	シュミレーションをして対応の仕方を考えている。避難訓練と合わせ応急手当をおこなっている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。毎回前回の反省を活かした訓練を行っている。昼夜の対応の仕方を話し合っている。推進会議の中で、災害時について協議したが、高齢化地域において火事ならば協力出来るが、災害時は地域の高齢者のバックアップに人手が居る。と意見を頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、声のトーンに気を付けているが、危険を感じた時は、反省しなければいけない時がある。こう言った場合、入居者に事後の説明を大切にしている。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月初めに、今月の目標を聞いている。移動販売来訪時、自分で選んで購入して頂いている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にしているが、出来ない事があり苦慮している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時の情報を元に身だしなみ、おしゃれに気を付けている。 入浴前は、着る服を選んで頂いている。また、外出前にも同様で選定に時間に余裕をもった事前声掛けをしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事を反映したメニューになっている。食事前、最中に職員が「七夕だからそうめん」声掛けする事で季節であったり昔話に繋がる。また、地域の方から旬の山菜、野菜を頂戴する時もあり、一緒に下準備したり調理方を聞いたり食材も話題づくりの武器になっている。 片付けは得意とする方がおり当番で職員と一緒にやっている。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事を記録に残している。カロリー計算された食事提供している。 水分に関しては、主治医から指示をもらい、その指示に沿った水分量を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、行っている。出来ない方には職員が介助している。また、歯科医来訪時、アドバイスを頂いている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターン把握の為、全員記録を残している。日中は出来るだけトイレ誘導しトイレでの排泄をしてもらっている。介護度5の方でも同様で失敗しない様に努めている。日中と夜間の支援方法を変えている。		
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取の声掛け、午前、午後の運動を行っている。また、床に座って運動する事で、排便時、腹筋に力が入るように心がけている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人週に2回以上の入浴を行っている。本人の希望はもちろんですが、どうしても拒否がある場合、時間、対応職員を変え対応している。時には、仲の良い入居者さんから声掛けしてもらい入浴につなげた時があった。		
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度は運動、散歩など声掛けして夜間の安眠に繋げているが、その人に合った睡眠時間の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の受診記録に処方箋をファイリングして、必ず処方箋に目を通し職員間で情報の共有をしており副作用についても理解に努めている。分からない事は、薬剤師、主治医に相談している。 内服してからの変化については、受診の際に主治医へ報告している。 内服についても記録に残している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	あいさつ当番、食器拭き、洗濯たみなど自宅でやっていた事、出来る事をやって頂いております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、コロナ禍により外出の機会が減っている。入居者出身地域でもお祭り、行事の中止が背景にあります。馴染みある場所へのドライブ、地域への散歩でしか今年度は対応できていない。		
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域商店の移動販売時、本人にお金を渡し嗜好品を購入してもらっています。 品物を見て選んで直接商店の方とお金のやりとりをもらっている。合計金額、おつりの計算がゆっくり時間を掛け出来る様に商店の方からも協力してもらい支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が電話を掛け本人に代わっている。逆に家族からの時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の家の様に、天井が高く、大家族で過ごした様にリビング(居間)が広い作りになっている。中庭が見える様になっており季節によって花が咲いたり雪が積もったり季節を目に訴える事ができる。 リビングを中心にトイレが3か所あり混雑はない。 見ていれば各々の場所があり、その場所に居れば安心している様です。		
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーがあったり小上がりがあったり思い思いに過ごしている。皆で一緒におやつを食べている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた私物を持って入居してもらう様にして今までの環境を再現する様に努力しております。趣味の道具を持ち込んで貰ったりしております。		
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」の表記は入居者さんの目線の高さに合わせている。		